

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌
【かざぐるま】

2011 夏号

55

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集 熊野本宮大社の修復トピックス

公益財団法人への移行にあたって
連載

埋蔵文化財課短編

きのくに歴史小話

「建築彫刻の語」

「発掘屋余話」



公益財団法人への移行にあたって

平素は和歌山県文化財センターの活動にたいしまして、ご指導、ご協力を頂き誠に有り難うございます。

このたび平成23年4月1日をもちまして公益財団法人として認定され、新たに出発することとなりました。和歌山県文化財センターは和歌山県が基本財産を出資し、昭和62年4月1日に財団法人として発足した団体です。今日まで和歌山県下における埋蔵文化財および文化財建造物の調査研究、保存修理を通して、和歌山県の文化財を保護することに努めてまいりました。公益財団法人になったことは、当団体が公共の利益を目的とした事業を行っていることが、法によって改めて認められたことでもあります。私たちはこのことを重く受け止め、より一層の努力をしていく所存です。

和歌山県は古くから文化の栄えたところで、原始古代の遺跡や、有形無形の文化財が数多く残されています。また高野山や熊野三山の霊場を擁し、全国から多くの参詣者が訪れた地でもあります。度重なる天災や兵火をくぐりぬけ、今日まで残されている文化財は、和歌山県民のみならず、日本のかけがえのない財産です。

昨月には東日本大震災の災禍があり、数多くの方々が亡くなり、また住まいを失いました。誠にいたましく、自然の猛威を見せつけられた気がいたします。しかしながら先人たちもこの自然と闘い、今日の社会を築いてきたのも事実であります。このような大変きびしい状況の中で、とかく自信を失いがちになりそうな時こそ、先人たちが残した文化財が持つ価値や意味を見直し、しっかりとその立ち位置を考えるとときではないでしょうか。

和歌山県文化財センターは、これからも埋蔵文化財の発掘調査、文化財建造物の保存修理を主幹とした、公益性の高い事業を進める誇りと自覚をもって、事業活動を行ってまいりますので、皆様方におかれましては、今後ともあたたかいご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 和歌山県文化財センター

理事長 鈴木嘉吉

熊野本宮大社の修復トピックス

熊野本宮大社の修理

熊野本宮大社では現在、重要文化財三棟の社殿の保存修理が行われています。第一殿・第二殿、第三殿、第四殿の檜皮屋根の葺き替えがその主な内容で、その他、縁まわりの修理と飾り金具の修理などが実施されています。本宮大社の保存修理はこれまで本誌52号、54号の現場短信コラムでも、お伝



本宮大社の社殿近況
手前二棟が屋根工事完了した第三殿と第四殿、後ろがこれから修理をする第一殿・第二殿

えしてきましたが、今回は改めて特集いたします。

本宮大社の第一殿・第二殿、第三殿の二棟は、享和二年（一八〇二）に建設されたことが額縁状の棟札が残されており判明します。第四殿はやや遅れて文化七年（一八一〇）年に建立されたことが、やはり棟札からわかっています。文化財としては比較的新しい時代の建物になりますが、木柄が太く入母屋造を用いた屋根など、熊野三山の社殿形式を伝える貴重なものとして、平成七年に国の重要文化財に指定されたのです。

保存修理の経過

重要文化財の三棟は、昭和四三年（一九六八）を最後に檜皮屋根が葺き替えられましたが、以来四十年余りが経過し、近年になり檜皮葺き屋根が傷み、屋根の葺き替えが必要になっていました。

そこで熊野本宮大社では、平成二二

年六月より平成二四年九月までの計画で、屋根の葺き替えと縁まわりの修理をすることになり、昨年六月に着手の運びとなったものです。

修理は第三殿の屋根工事からとりかかりました。九月中旬より第三殿に素屋根（仮設足場）を建設し、屋根の檜皮を解体しました。千木、勝男木も屋根葺き替えのため、いったん解体し修理しました。第三殿の檜皮屋根をめく



第四殿の屋根葺きの様子



大齋原時代の社殿（熊野本宮大社提供）

りとなると、表面は腐朽していましたが、中は比較的健全で、四十年経ても状態は良かったといえます。屋根野地の修理の後、在来通りに新たな檜皮で屋根を葺きました。屋根を葺き終えた

ところで、箱棟まわりを組み付け、屋根工事が完了です。（表紙写真）

第三殿の屋根工事が完了したのに続き、第四殿の工事に取っかかりました。第四殿もおおかた第三殿と同様に進みましたが、箱棟まわりは第三殿よりは傷んでおり、修理することになりました。また第三殿の縁まわり工事も進めています。勾欄と木階、浜床を全ていったん解体し、その他切目縁の縁板や浜縁は、補修が必要などころを部分的に解体して修理しています。

今年の六月からはいよいよ一番大きな第一殿・第二殿の屋根工事に取りかかる予定で、縁まわりの工事も併せて進めていきます。

大齋原から現在地へ

熊野本宮大社は、良く知られているように、かつては熊野川と音無川の中州状の台地、大齋原おおゆのほらに社地が構えられていました。蟻の熊野詣と称された多くの参詣者はここに訪れていました。

しかし明治二二年（一八八九）に当地を襲った大水害で、神社は大変な被害をこうむり、これを機に明治二四年

に熊野川を見下ろす高台の現在地に移りました。現社修理している建造物は、大齋原から移築されたものです。当社に残る古写真からは、第三殿は大きく傾き、第四殿は正面の向拝が取れて大破している状況がわかります。他の写真には崩壊してしまった社殿も写っています。まさに神社の歴史上、一番の大惨事であったといえるでしょう。



水害に遭った第三殿（手前）と第四殿（熊野本宮大社提供）

う。水は社殿の軒先近くまで上がったと伝えられており、この洪水により土砂で河床も上がってしまいました。建物はいったん解体され、現在地へ運ばれ、組み直されたのです。

今回の修理を機に、建物を観察すると、水に付いたような跡がある部材があり、洪水の被害にあったことが見て取れます。注目されるのは、第一殿・第二殿、第三殿、第四殿の各建物に墨書が沢山見られることです。「三三八」などとあって、これらは古い木の表面を削って書かれている部分もあるため、間違いなく明治移築のさいの解体番付であることがわかります。最初の「三」は第三殿という意味のようで、第四殿は略して「〇」になっていまし



現在の社地と大斎原

た。番付を見ると、基本的に番付通りで組み直されているのが確認でき、垂木の間の化粧裏板も同じ位置に張られていました。檜皮屋根の下地の野木舞には、和釘痕跡があるものもあり、移築後も建築当初の木舞が再利用されていることが判明しました。

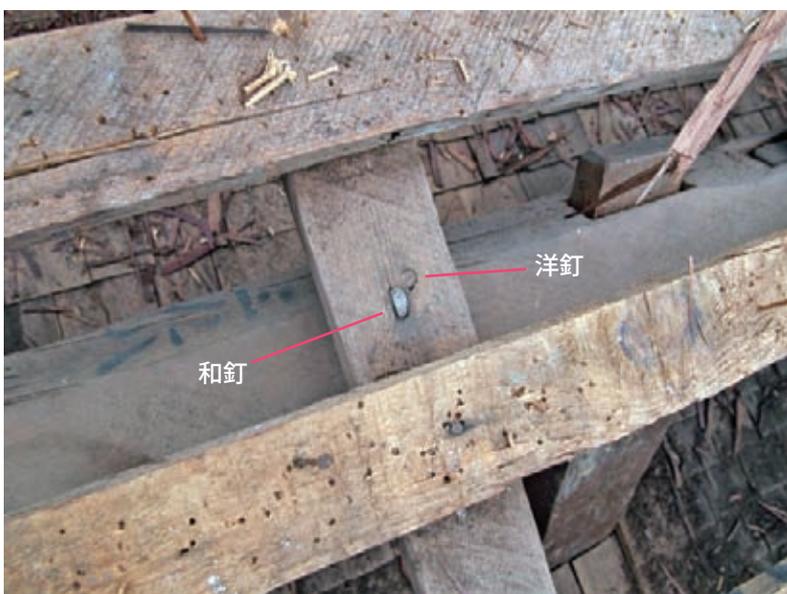
大洪水にも屈せず、部材を大切に用い、同じように御社殿を組み上げる



第四殿化粧裏板の移築番付（「〇北三十一後」などと記されている）

という、当時の人たちの熱い意志が伝わってくるのとともに、土木機械の無い時代、たった二年でこれだけの大移築工事を成し遂げた技術力、行動力に驚かされます。
(御船 達雄)

注..和釘は明治前期まで使われた伝統的な釘で、明治中期より現在みられる機械生産の洋釘に替わりました。明治移築では洋釘が用いられています。



垂木や野木舞には和釘が残る



京奈和自動車道関連の出土遺物整理

京奈和自動車道（紀北東道路）の改築に伴う発掘調査が、平成18年度第1次から平成21年度第7次にかけて行われました。そのうち第1次と第2次の西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡は、平成20・21年度に出土遺物整理が行われ、発掘調査の報告書が刊行されました。ひきつづき平成22・23年度には、第2次の残りから第7次まで、西飯降Ⅱ遺跡、中飯降遺跡、大谷遺跡、加陀寺前経塚、重行遺跡の出土遺物整理を行なっています。

西飯降Ⅱ遺跡は、伊都郡かつらぎ町に



中飯降遺跡の縄文土器 接合作業中



中飯降遺跡の縄文土器 復元作業中



西飯降Ⅱ遺跡の弥生土器 復元作業後

所在し、紀ノ川中上流域の北岸の低位段丘上に立地します。縄文時代から弥生時代、古墳時代、古代・中世の各時代の遺構が重なって発見されました。特に、弥生時代から古墳時代（2000年前〜1400年前）には竪穴住居が密集しており、当時のこの周辺の中心的な集落であったことがわかります。

中飯降遺跡は、西飯降Ⅱ遺跡の東に隣接しています。縄文時代から中世にいたる遺構が発見されましたが、特に縄文時代（4000年前）には、大型の竪穴建物がある特殊な集落であったようです。

東日本に比べて西日本では縄文時代の遺跡は多くはなく、和歌山でもある程度の遺物量があり遺跡の内容がわかる例は数えるほどです。そのなかでも中飯降遺跡は異例の発見といえます。

遺物の整理作業は、まず地面から掘り出されて土砂が付いたままの遺物をきれいに水洗いするところからです。それから、どの遺跡のどの地点から出土したのかわかるように、遺物に注記をしておきます。注記が済んだ土器の破片を、机一面に並べて接合を行い、形状を復元していきます。遺跡から出土する土器は、使われた当時に捨てられて破損したか、後の時代に土が掘り返されて壊されたかで、ほとんどはバラバラの破片の状態で見つかります。その破片を根気よく接合し、復元された形状から、土器の時期、用途、性格などの情報を読みとります。同様にその土器が出土した遺構の時期、用途、性格を考え、その作業をくり返して遺跡の全体像を考えていきます。

（富永 里菜）

きのくに歴史小話

れきしこぼなし

建 築彫刻の話 ⑬

今回は和歌山市にある加太春日神社の脇障子彫刻です。本殿の向かって左側にあります。鶴と亀、松と竹、それに橘でしようか実のなつた木、そして下に波、上には雲と三日月が彫刻されています。これは不老不死の仙人の住む島「蓬莱山」を象つたものです。蓬莱山は中国から見て東の海の彼方にあつて大きな亀の背に乗つた島とされています。なるほどよく見ると亀は甲羅の上に岩のようなものを背負い、そこから松や実を付けた木が生えています。鶴は仙人の乗る鳥です。ところでこの亀、頭が龍のように見えませんか。実は、これは龍の子供で、重いものを背負うのが得意な、「鼈負」という霊獣です。このコラムの第4回で紹介した「黄石公と張良」の彫刻と対になっています。張良の活躍した漢王朝の七代皇帝武帝は、「蓬莱山」にある不老不死の妙薬を探し求めたと伝えられています。(鳴海 祥博)



加太春日神社の脇障子彫刻「蓬莱山」

発 掘屋余話 ⑬

それにつけても――

いきなりですが、某製菓会社の古銭のかたちをしたお菓子をご存知ですか？昔からある素朴な味のするビスケットです。

先日、何年かぶりにそれを食っていて、思わずオツと声をあげてしまいました。なんと「富本銭」が入っていた。富本銭は十年ほど前、奈良県の飛鳥池遺跡で大量に見つかったもので、それまでわが国最古の銭貨と考えられていた「和同開珎」より古く、七世紀後半には造られていたことが判明しました。考古学の成果をいち早く取り入れた製菓会社に敬意を表したいですね。

ところで「和同開珎」を今、どう読まれました？ワドウカイホウと読まれた方は中年以上の人、一方ワドウカイチンと読んだ方は若い世代でしょうね。どちらも正解ですが、最近の教科書はカイチンですね。ともかくこの富本銭以来、わが国では平安時代の中頃までつぎつぎにお金が造られますが、それから六百年以上、江戸時代までお金の铸造は途絶します。この間は中国からお金そのものを輸入し、流通させていました。ですから中世の遺跡で出土する銭貨はほとんど宋銭か明銭ですね。ただ、たまにこれらに混じって古い銭貨が見られます。かつらぎ町の丹生都比売神社の室町時代の経塚からは、なんと中国の新しい時代(約二千年前、前漢と後漢の間)の貨幣「貨泉」が出土しています。筆者の知る限り貨泉の出土は和歌山県ではこの一例だけです。さすがに手にしたときはちょっと感動しました。

古銭でもっともピュラーなのはあの銭形平次が投げっていた「寛永通宝」でしょう。ちなみにこの直径が足の大きさをあらわす単位、一文ですね。以上、お金にまつわる話だけに最後は「お足」になってしまいました――。

(村田 弘)

催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報

(公財)和歌山県文化財センター <http://www.wabunse.or.jp/>

○調査報告会「地宝のひびき—和歌山県内文化財調査報告会—」

日 時：平成 23 年 7 月 9 日（土）午前 10 時 20 分から 16 時 30 分

場 所：和歌山県立図書館（きのくに志学館）講義・研修室（和歌山市西高松一丁目 7 番 38 号）

内 容：県内において、平成 22 年度に行われた文化財調査の報告を行います。今回は、昨年度の調査成果のうち立野遺跡や神前遺跡など、特に弥生時代から古墳時代にかけての集落・古墳の調査に焦点をあてます。工楽善通氏（大阪府立狭山池博物館館長）の記念講演のほか、県内文化財調査担当者から報告があります。

県立紀伊風土記の丘 <http://www.kiifudoki.wakayama-c.ed.jp/>

○春期企画展「弥生時代から古墳時代へ ～暮らしの変化を探る～」

期 間：平成 23 年 4 月 12 日（火）～6 月 26 日（日）

内 容：時代が弥生時代から古墳時代へ変化していく中で、暮らしがどのように変化していったかを遺物の展示とおして辿ってみます。

○夏期企画展「郷土のおもちゃを見てみよう！」

内 容：平成 23 年 7 月 12 日（火）～9 月 11 日（日）

和歌山県立博物館 <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

○特別展「華麗なる紀州の装い—かみ・ひと・ほとけをつなぐ—」

期 間：平成 23 年 4 月 23 日（土）～6 月 5 日（日）

内 容：紀州には、人々によって守られてきた装束などの古い時代の染織資料が、数多く残されています。この展覧会では、国宝や重要文化財に指定されている染織資料を中心に、紀州の歴史や文化とともにご紹介します。

○企画展「葛城修験の聖地・中津川行者堂の文化財」

期 間：平成 23 年 6 月 11 日（土）～7 月 18 日（月・祝）

内 容：紀の川市中津川地区にある行者堂は、和泉山脈の峰々をめぐって修行する葛城修験の重要な拠点です。この行者堂と近隣の熊野神社に伝わる文化財から修験道文化の一端をご紹介します、あわせて近年盗難を受けた行者堂の文化財についての情報をお伝えします。

和歌山市立博物館 <http://www.wakayama-city-museum.com/>

○特別陳列「心の旅・全国の郷土玩具展」

期 間：平成 23 年 4 月 23 日（土）～6 月 12 日（日）

内 容：市内の郷土玩具収集家より寄贈された、明治時代後半から戦後の高度経済成長期までの全国のおもな郷土玩具を展示します。

高野山霊宝館 <http://www.reihokan.or.jp/>

○開館 90 周年記念企画展「宝を護れ！～大正時代の保存プロジェクト～」

期 間：平成 23 年 4 月 29 日（金・祝日）～7 月 10 日（日）

内 容：長い歴史をもつ霊宝館の歴史と沿革、建築について紹介します。

(公財)和歌山県文化財センター現場事務所等一覧

【埋蔵文化財課分室】

○和歌山市新在家 61 番地-4

TEL 073-472-3710

○和歌山市土佐町 2 丁目 58-3

TEL 073-427-6174

【文化財建造物修理事務所】

○長保寺保存修理事務所

海南市下津町上 685

TEL 073-492-3260

○金剛三昧院保存修理事務所

伊都郡高野町高野山 425

TEL 0736-56-5578

8 催し物案内

「発掘屋余話」

「建築彫刻の話」

7 きのくに歴史小話

6 埋蔵文化財課 短信

3 特集 熊野本宮大社の保存修理

2 公益財団法人への移行にあたって

1 表紙 熊野本宮大社第三殿

目次

風車 55 (2011 夏号)

平成 23 年 5 月 26 日発行

(公財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊 571-1

TEL 073-433-3843

FAX 073-425-4595

Email maizou-1@wabunse.or.jp

URL <http://www.wabunse.or.jp>